

NEWS LETTER

Vol.16

2018. 4

トリナ・ソーラーの最新情報！

contents

1. PV EXPO 2018 ご来場のお礼及びご報告
2. 新製品・新ソリューションのご紹介
～新型モジュール『SPLITMAX』と新PVソリューション「TrinaPro」～
3. トリナ・ソーラー 20周年イベントのご報告
4. トリナ・ソーラー 最新ニュース
～水上メガソーラー発電所竣工 とトリナによる世界基準～

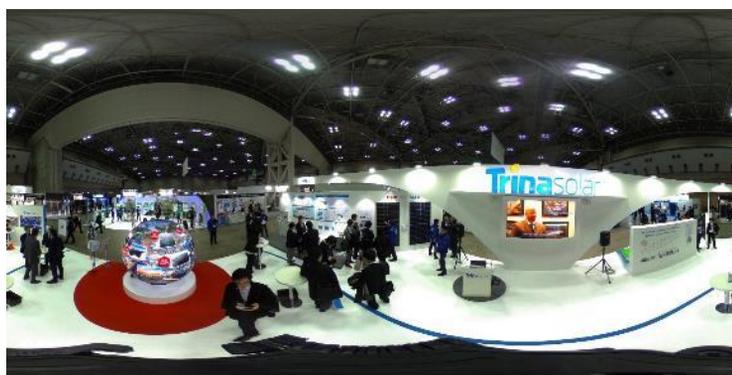
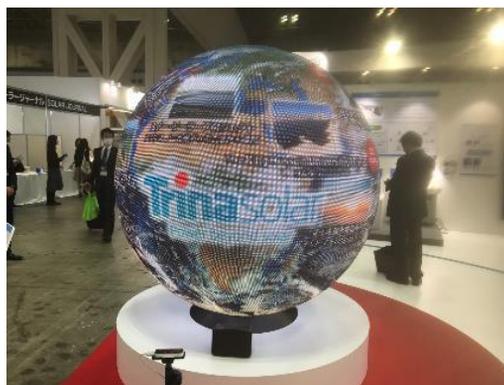


1. PV EXPO 2018 ご来場のお礼及びご報告

2月28日(水)～3月2日(金)に、東京ビッグサイト(東京都江東区)にて開催された世界最大級の新エネルギーの国際見本市「スマートエネルギーWeek 2018」内『PV EXPO 2018 第11回 [国際] 太陽電池展』に、ブース出展しました。

昨年以上の大勢のお客様にブースへご来場いただき、誠にありがとうございました。

今回、ブースでは、『発電分野にとどまらず、蓄電、送配電、売電、クラウドを利用した管理分野を連携し、スマートエネルギーと小規模発電ネットワークのエネルギーインターネットソリューションの分野のリーダーとして太陽光のトータルソリューションを提供する企業になる』というトリナの新しいビジョンの下、PVモジュール、システムパッケージ・ソリューションを提供する「トリナ・ソーラー・ジャパン株式会社」、O&Mを含む発電事業開発・販売を行う「トリナ・ソーラー・ジャパン・エナジー株式会社」、蓄電池システムの開発、製造、販売を手がけるトリナベス社の日本法人「トリナ・エナジー・ストレージ・ジャパン株式会社」の3社による、製品・ソリューション・サービスをご紹介しました。



<http://sv1.panocreator.net//viewerController?u=u1482743806&p=p1521825472&s=s1521822646>

360度映像でご覧いただけます。

また、最終日の3月2日には株式会社アーツ&クラフツ建築研究所 代表取締役 杉浦 伝宗様を特別講師に迎え、「一戸建て住宅の建材一体型太陽電池 (BIPV)の可能性」についてお話しいただきました。

2. 新製品のご紹介

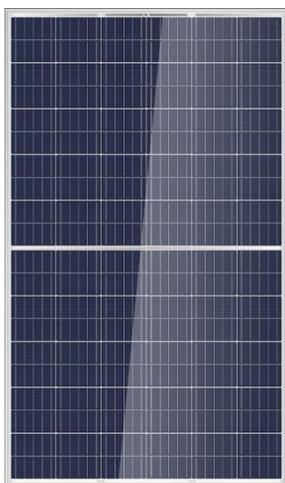
■ 新型モジュール『SPLITMAX』発表！

トリナ・ソーラーは、『PV EXPO 2018』にて、新製品となるメガソーラーや産業向けの新型『SPLITMAX』を発表しました。

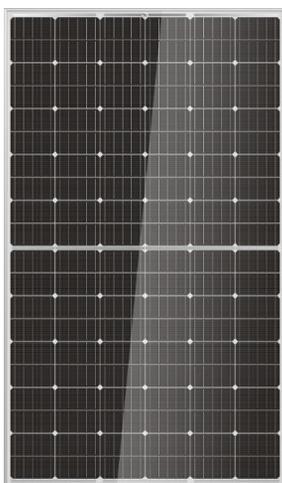
新型『SPLITMAX』モジュールは、セルを2分の1サイズにカットしたハーフカットセルを採用することにより、セルの電流値を半分に下げ、セル内部の発電ロスを約4分の1に低減することができ、また、LRF (Light Redirecting Film) を用いることで更に高出力を得ることが可能になり、モジュール一枚あたりの発電量が約10W増加しました。一方、セルストリングスを分割し、並列に接続を行う新しい配線技術を採用したことにより、パネルに生じる影によって引き起こされる出力損失を大幅に低減させることが可能となりました。ヨーロッパやアメリカでは主流の縦置きでモジュールを設置すれば、下部に影がかかっても、上部は影の影響を受けずに発電するので、出力ロスを抑えることができます。

FIT価格が下がる中、より大きな発電量で収益性に貢献するのが、新型『SPLITMAX』モジュールです。これまでの住宅用の単結晶に加え、新製品となる多結晶の新型『SPLITMAX』モジュールは、メガソーラーや 商業・産業用設置にお勧めです。

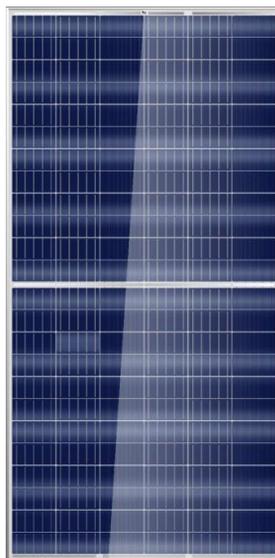
SPLITMAX



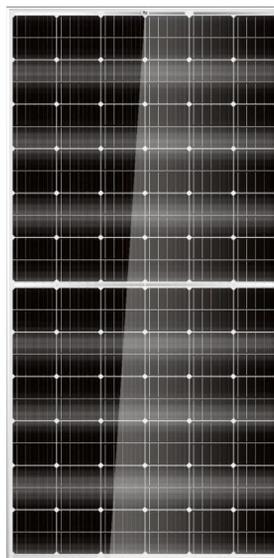
PE05H
多結晶 120 セル
出力範囲：275 - 290W
モジュール寸法：
1675 × 992 × 35 mm



DE05H(II)
単結晶 120 セル
出力範囲：295 - 320W
モジュール寸法：
1675 × 992 × 35 mm



PE14H
多結晶 144 セル
出力範囲：335 - 345W
モジュール寸法：
2000 × 992 × 40 mm



DE14H(II)
単結晶 144 セル
出力範囲：350 - 380W
モジュール寸法：
2000 × 992 × 40 mm

2. 新ソリューションのご紹介

■モジュール^{プラス}のソリューション「TrinaPro」発表

トリナ・ソーラーは、メガソーラー、産業用途向けの新たなスマートPV（太陽光発電）ソリューション「TrinaPro(トリナ・プロ)」のグローバル展開を3月21日に発表しました。

日本版の「TrinaPro」の水上設置用ソリューションは、2月28日~3月2日に開催された『PV EXPO 2018』にて世界に先駆けてご紹介させていただきましたが、3月21日、トリナ・ソーラーの当社により、新規ビジネスとして「TrinaPro」のソリューションが発表されました。

グローバルでの展開が発表されたのは、追尾式の地上設置用ソリューションと水上設置用ソリューションの2型。地上設置用ソリューションは、発電量を10%-30%改善するのに役立つ最先端の追尾式システムとスマートモジュールの組み合わせが特長。水上設置用ソリューションは、貯水池、湖、などの淡水の水上設置に対する解決策を提供します。

日本市場では、耐久性と信頼性に優れたトリナ・ソーラーの両面ガラスのDUOMAXシリーズのモジュールと、日本の厳しい環境基準や様々な要件を満たす日本メーカーによって開発された両面発電モジュールにも対応するフロート式架台を統合した「TrinaPro」のフローティング・ソリューションを第一弾として発売開始しました。

水上設置は、日本に20万個存在すると言われるため池などの(水上)遊水池を利用することにより、メガソーラー建設に新たな可能性をもたらすと言われてはいますが、特殊なフロート式架台や設置方法が求められるためこれまでそれほど多くの水上メガソーラーが建設されていないのが現状です。

世界中の様々な環境において実績を持つトリナ・ソーラーの両面ガラスモジュールに、水質、環境への影響などの検査を長期に渡って行い安心・信頼性の面を確証しました。また、両面発電モジュールDUOMAX Twinにも対応できるように水面からの反射光や散乱光を有効に取り入れられるような設計を施した日本製のフロートシステムを組み合わせることにより、フローティングシステムの調達が可能になるだけでなく、LCOE(均等化発電原価)を抑えることが可能になりました。水上設置に際しての設計、施工などのアドバイスも併せてご提供させていただくため、安心です。

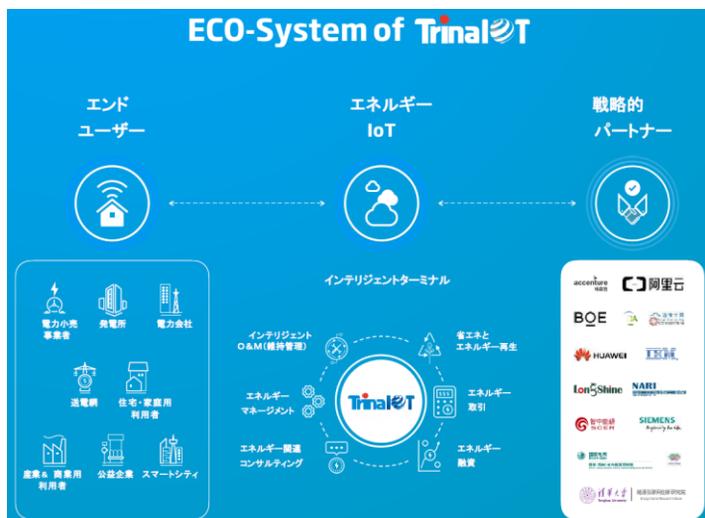


詳しくは、<http://www.trinasolar.com/jp/Trinapro-homepage>

3. トリナ・ソーラー 20周年式典のご報告

2018年3月22日、トリナ・ソーラーは、グローバル本部のある中国・常州において、創立20周年記念式典を開催しました。創業からの20年を回顧すると同時に、エネルギーIoTのグローバルリーダーになるための核となる「Trina Energy IoT」ブランドの立ち上げを発表しました。また、発電、蓄電、送電、配電、売電、買電、クラウドを利用した管理などを連携させたエネルギーのIoTのトータルソリューションを提供するために、各分野のトップ企業との、「トリナ エネルギーIoT産業開発提携」を開始することを発表しました。

大学院で科学を学んでいた当社 会長兼最高経営責任者の高紀凡(Jifan Gao)が、太陽光発電の将来性と当時米国で提唱された「ミリオン・ソーラー・ルーフ」イニシアチブに感銘を受けて、起業家としてトリナ・ソーラーを立ち上げたのが1997年12月。「世界中の人々に、クリーンで信頼できて、手頃な価格で導入できる太陽光エネルギーを提供し、より良い社会作りに貢献する」ことをミッションとし、トリナ・ソーラーは中国の常州の一企業から瞬く間にグローバル太陽光モジュールメーカーと成長し、2006年には、NY証券取引所に上場を果たしました。その後は、優れた研究開発力、品質管理力により高い信頼性を得て、世界市場におけるPVモジュールメーカーのリーダーとなりました。2017年の累計モジュール出荷量32GWを超え、2016年に続きは世界No1を達成しました。



高CEOは、「これまでの20年は太陽光発電のモジュール、ソリューション、蓄電池、プロジェクト開発などを手がけて来ました。これからは、新しい「トリナ3.0」の時代が始まります。。グローバルエネルギー業界は大きく変わりつつあります。トリナ・ソーラーはこの流れの中で革新的なリーダーであり続けなければなりません。「トリナ3.0」時代では、弊社はエネルギーIoTのグローバルリーダーとなることを目指し、デジタル化と新エネルギーのスマートオペレーション化への移行を推進し続け、お客様へ総合的な幅広いサービスを提供するために、エネルギーIoTの基本的な枠組みを確立します。」と語りました。

「トリナIoT」は、既存の業種や業界といった枠を超えて提携パートナー間で互いの技術や資本を活用することで総合的なエネルギーマネジメントとコントロールを可能にし、よりスマートで効果的なエネルギーサービスを提供することを可能にするための「トリナ エネルギーIoT産業開発提携」は金融、IT、コンサルティング、大学、ブロックチェーンなどの知見や実績が豊富なパートナーと共に推進されます。今後は、提携パートナーを増やし、エネルギーIoTエコシステムを構築していくこととなります。

4. トリナ・ソーラー 最新ニュース

■DUOMAXを使用した水上メガソーラー第一号が誕生

2018年3月20日、岡山県笠岡市でトリナ・ソーラーのフレームレス両面ガラスモジュールを採用した水上設置型太陽光発電所が発電を開始しました。

トリナ・ソーラーのフレームレス両面ガラスモジュール“DUOMAX M PLUS TSM-300DEG5(II)”を8800枚採用して建設されたのは「いちご笠岡岩野池ECO発電所」。59,906㎡のため池を利用し2.64MWの太陽電池モジュールが設置されたこの水上メガソーラー発電所は、880世帯の電力をカバーする年間333万kWhの発電量、石炭発電量に比べて年間2,201トンのCO2排出量の削減が期待されています。



詳しくは <http://www.trinasolar.com/jp/resources/success-stories/ichigo>

4. トリナ・ソーラー 最新ニュース

■トリナ・ソーラー、両面ガラスモジュールのSEMI 基準を設定

トリナ・ソーラーが主導した両面ガラスの規格が、「SEMI」(Semiconductor Equipment and Materials International 半導体製造装置材料協会)により、国際規格の「結晶シリコン太陽電池の地上設置用両面ガラスモジュールの仕様」(SEMI PV82-0318)として2018年に発表されました。

近年、太陽光発電市場の急速な発展に伴い、太陽光発電製品の品質、信頼性、およびLCOE (levelized cost of electricity) への要求が高まっています。トリナ・ソーラーは、低コスト、高信頼性、高耐久性を実現する両面ガラスモジュールという新技術製品を発売し、高温、高湿度、酸、アルカリなどへの強い耐久性により、両面ガラスモジュールは業界で大きな支持を得ています。

トリナ・ソーラーは、SEMI 基準 PV素材中国規格技術委員会PVQAのグループリーダーとなった2015年3月以来、PVモジュールメーカー、PV素材メーカー、および権威ある検出メカニズムの専門家達を組織化し積極的に規格作りを推進してきました。標準化の過程で、対比試験に100以上のモジュールのサンプルサイズを提供し、規格の科学性と実現可能性をサポートする正確なデータを提供しました。この企画提案は、2017年の第5回のグローバル信任投票で国内外の業界専門家から高く評価され、信任されました。

トリナ・ソーラーは太陽光発電規格の開発に積極的に取り組んでいます。両面ガラスモジュールを市場に投入した当時、弊社は、両面ガラスモジュールのSEMI規格の確立を提案した最初の企業でした。トリナ・ソーラーは、業界への協力を続けることにより、世界の太陽光産業の発展において重要な役割を果たす両面ガラスモジュールの基準を作ったのです。

トリナ・ソーラーは、国際IEC基準、4つの国際SEMI基準、2つの国家基準、2つの業界基準、1つの協会標準などの太陽光産業の89規格の策定に関わってきました。

